

## 御嶽山噴火に関する国土地理院の対応 Responses of GSI to the Eruption of Mt.Ontake Volcano

### 企画部 防災推進室 Planning Department Disaster Management Office

#### 要 旨

国土地理院は、大規模自然災害の発生時において救命・救助活動及び復興に寄与するため、関係機関へ地理空間情報の提供を行っている。御嶽山噴火に関しても、国土交通本省をはじめとする関係行政機関（以下「関係機関」という。）へ地理空間情報を提供した。本稿ではその取り組みについて報告する。

#### 1. 御嶽山噴火の概要

御嶽山（標高3067m）は、長野県と岐阜県の県境に位置し（図-1）、これまで昭和54（1979）年、平成3（1991）年、平成19（2007）年に噴火が発生した活火山である。



図-1 御嶽山の位置図

平成26年9月27日11時52分頃に剣ヶ峰山頂南西側から噴火が発生し、火砕流が南西方向に3km以上流下するとともに、大きな噴石が火口列から1kmの範囲に飛散しているのが確認された（図-2）。また、噴煙は火口上7,000mまで上昇したと推定され、降灰は御嶽山西側の岐阜県下呂市萩原町から東側の山梨県甲府市飯田にかけての範囲で観測された。

この噴火には多くの登山者が巻き込まれ、死者57名、行方不明者6名の被害をもたらした（平成27年2月現在）。



図-2 平成26年9月28日11時撮影  
（左下図は撮影位置）

#### 2. 国土地理院の主な対応

国土地理院は、平成26年9月27日の噴火発生後の12時36分に火口周辺警戒の噴火警戒レベル1（平常）から3（入山規制）への引き上げに伴い、注意体制をとった。その後、重大な被害の発生へ対応するため、13時45分に非常体制に移行し、測量用航空機「くにかぜⅢ」（以下「くにかぜⅢ」という。）による緊急撮影（図-2）を実施するなどの情報収集、関係機関へ被災状況の把握や救命・救助活動等に必要地理空間情報の提供を行った。

また、9月28日に政府の非常災害現地対策本部が長野県庁に設置され、国土地理院からリエゾンとして専門家7名（延べ25名）を派遣し、現地活動における地理空間情報の提供要望にこたえ、災害対応に貢献した（図-3）。



図-3 政府現地対策本部

## 2.1 各部の対応

御嶽山噴火に関する各部の主な対応は、以下のとおりとなる。

- 1) 基本図情報部  
「くにかぜⅢ」による御嶽山噴火周辺地域の斜め写真の撮影及び航空機 SAR 観測
  - 2) 地理空間情報部  
御嶽山噴火に関する各種地理空間情報をホームページ上で公開，立体地図及び3D模型の作成・提供
  - 3) 測地部及び地理地殻活動研究センター  
陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)のデータを用いて干渉 SAR により御嶽山噴火周辺地域の地表変位の検出
  - 4) 測地観測センター  
GNSS 連続観測による御嶽山周辺地域の地殻変動の把握
- なお，詳細な対応は次頁以降で各部から報告する。

## 3. まとめ

国土地理院は，災害対策基本法の指定行政機関としての責務を果たすべく，今回の火山活動はもとより今後発生が予想される東海地震や南海トラフ地震をはじめ，風水害に対しても万全な体制を備える所存である。

最後に本災害において被災された皆様方に心からお見舞い申し上げます。

(公開日：平成 27 年 3 月 12 日)